

サーキュラーエコノミー推進プロジェクトチームの取組報告

1 概要

- 本県では、2022年3月に「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」を策定し、これまでの3Rを核とした取組に加え、資源を有効に循環利用し、資源投入量、廃棄物発生量を限りなく小さくする「サーキュラーエコノミー（循環経済）」への転換による循環ビジネスの進展を図っている。
- 本プランでは、プラスチックや太陽光パネルなど、本県の地域特性や産業のポテンシャルを生かしたサーキュラーエコノミー推進モデルを創設した。
- 6つの推進モデルを具体化するため、「サーキュラーエコノミー推進プロジェクトチーム（以下「PT」という。）」を2023年1月に設立し、動脈産業と静脈産業が連携した事業化に向けた支援を行っている。

推進モデル	プロジェクトチーム名	目的	参画者数
プラスチック	プラスチック循環利用PT	製品原料としてのリサイクルが困難な混合プラスチック等の再生原料化の促進	19
	バイオプラスチック循環利用PT	地域のバイオマス原料を活用したバイオプラスチック製品の普及拡大の促進	13
太陽光パネル	太陽光パネル循環利用モデルPT	使用済みの太陽光パネルを効率的に回収し、リユース、リサイクルへとつなげるビジネスモデルの構築	14
繊維・衣類	繊維・衣類循環利用PT	使用済み繊維製品を効率良く回収し、付加価値のある製品として再生	10
リペア・リビルド	リペア・リビルド普及PT	製造、販売、リース、利用、修理、メンテナンスなどを担う事業者が連携して、設備や整備の長寿命化につながるリペア・リビルドの普及や有効な仕組みづくり	8
食品	廃食用油利活用PT	潜在的なストックである一般家庭からの廃食用油を地域と一体となって回収し、バイオ燃料等として有効に利活用する廃食用油のリサイクルシステムの確立	11
未利用木材	木質資源利活用PT	森林資源や木質廃棄物を有効利用する木材産業のビジネス創出・拡大と持続可能な森林管理	13

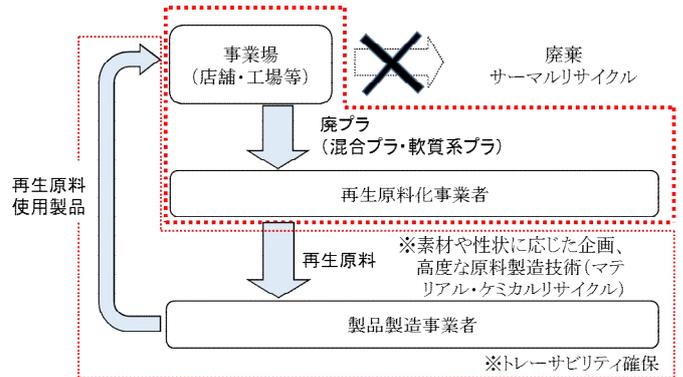
2 取組状況

- 7つのPTごとに、定期的にPT会議を開催しながら、参画事業者が事業化に向けた議論を行っている。
- 2024年1月末時点で66事業者（延べ88事業者）が参画し、2026年度までの5年を目処に事業化を目指す。

〔PTの取組事例〕

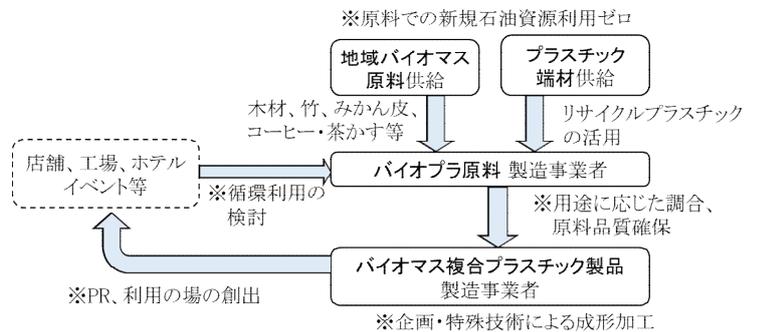
【プラスチック循環利用PT】

- ・製造したリサイクル原料を使用し、サーキュラーエコノミーへの訴求力が高く消費者に身近な製品を企画、検討。
- ・混合プラスチックや軟質系プラスチックからリサイクル原料を製造する設備を導入する再生原料化事業者に対して「循環型社会形成推進事業費補助金」（以下「補助金」という）を交付（2件：7,442万円）。



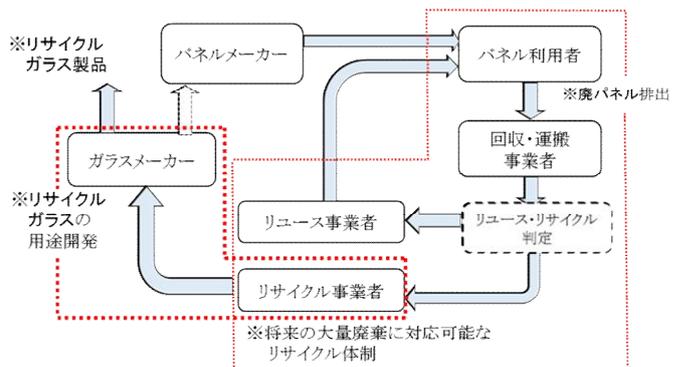
【バイオプラスチック循環利用PT】

- ・県内のバイオマス素材を活用して、地域のオリジナリティあふれるバイオマス複合プラスチック製品の企画・開発。
- ・バイオプラの原料化、製品製造の実証を行う事業者に対して「循環型社会形成推進事業費補助金」（以下「補助金」という）を交付（1件：588万円）。



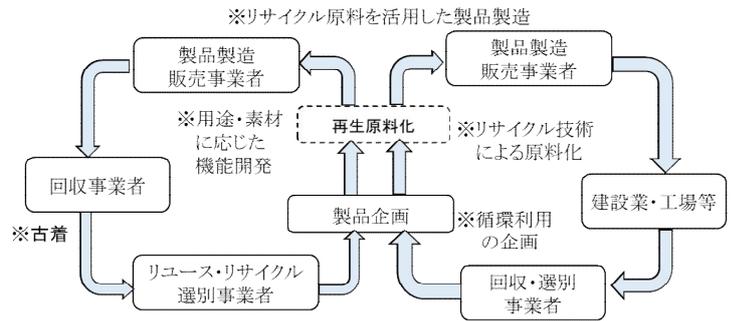
【太陽光パネル循環利用モデルPT】

- ・使用済み太陽光パネルを効率的に回収し、有効にリユースやリサイクルできる体制づくりを検討。
- ・使用済み太陽光パネルから高品質なガラス原料を製造する設備を導入するリサイクル事業者に対し補助金を交付（1件：5,000万円）。



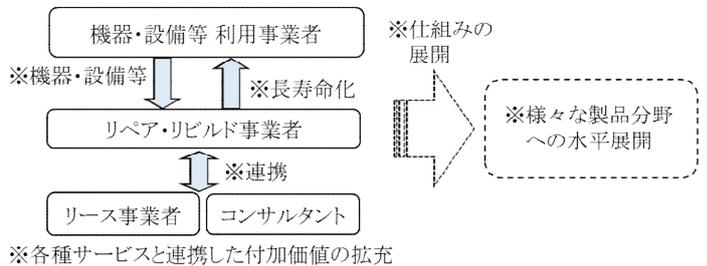
【繊維・衣類循環利用 PT】

- ・ 本県で使用及び廃棄の多く見込まれるワーキングウェアを対象に、「繊維 to 繊維」の実現に向け、循環するプラットフォームの構築について検討。
- ・ 高付加価値な再生繊維製品へのリサイクル等について検討。



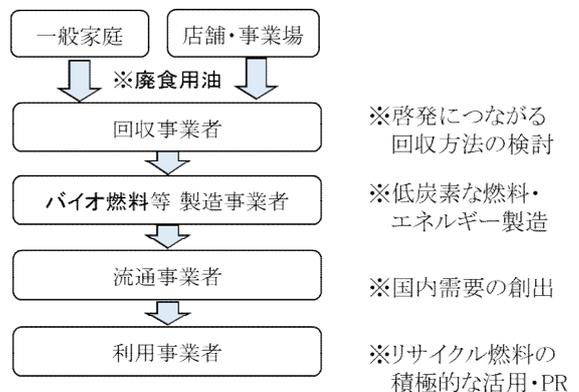
【リペア・リビルド普及 PT】

- ・ 多種多様な製品の長寿命化に向け、異業種・他業種が連携するリペア・リビルドネットワークの形成について検討。
- ・ ニーズの高いリペア・リビルド領域の明確化や、エンジンリビルド等における高付加価値なオプションの提供等について検討。



【廃食用油利活用 PT】

- ・ 利便性の高い拠点づくり等、地域と連携した高効率な回収の仕組みづくりや再資源化について検討。
- ・ 市町村への説明資料の作成。



【木質資源利活用 PT】

- ・ 調達から加工・製品化、再利用を一貫して行う体制づくりの検討。
- ・ 木材由来バイオ樹脂と再生プラスチックコンパウンド化による製品製造の実証を行う事業者に対して補助金を交付 (1件: 177万円 (※2社連名))。

